

京交山岳部報

【第1906回例会】★

宮後忌とロングアゴ・マウンテン

猿ヶ馬場とアシワラ岳

日時 10月3日(土)

集合 壬生厚生会館前 AM7:30

コース 京都-黒河峠-猿ヶ馬場IV 651.7m
-アシワラ岳・849m-黒河峠-
京都

担当者 三橋 勉(内565)

備考 地形図 敦賀

猿ヶ馬場は宮後君が1980年10月26日、
アシワラ岳は今西先生が1928年2月
12日それぞれ登頂である。

【第1907回例会】★★

鳳凰三山

日時 10月9日(金)~11日(日)

集合 壬生 AM12:00

コース 9日 京都-須玉-夜叉神峠(泊)
10日 夜叉神峠-広河原...広河原峠
...白鳳峠...地藏岳...鳳凰小屋
(泊)

11日 鳳凰小屋...観音岳...薬師岳...
辻山...夜叉神峠-須玉-京都

担当者 吉田 武(梅津 内654,
311-0998)

備考 費用 20,000円

地形図 5万図 葦崎, 鵜沢

2.5万図 鳳凰山, 夜叉神峠

(注) 山小屋泊りです。

今月の集会

日時 10月12日(月) PM6:00

場所 厚生会館 4F 大教室

企画運営委員会

日時 10月20日(火) PM6:30

場所 厚生会館 4F 大教室

【第1908回例会】★★

—錦織の台高山脈を訪ねて—

明神平から国見山

明神岳、薊岳

日時 10月10日(土)~11日(日)

壬生局前出発 AM7:00

行程 10日 京都-桜井-大又-...明神平
...国見山(1,419m)...明神
平(小屋泊)

(11日) 明神平…明神岳…薊岳
(1,419 m) …大又-桜井-
京都

地 図 高見山, 大豆生 (1 / 2.5 万)

担 当 岡田茂久 (811)

備 考 かつては台高山脈は京交の山とまで
言われていました。最近では当部から
この山域に入る計画も少なく、久し
ぶりに明神平を訪ね、諸先輩方の足
跡を偲びたいと思います。山々の紅
葉も始まり、静かな山行きが楽しめ
ることでしょう。

【第1909回例会】★

空 山 469 m

寺屋敷 487 m

日 時 10月18日 (日)

集 合 JR京都駅 AM6:27発

園部行乗車

コース 宮福線内宮駅-毛原-Ⅲ 469.9

(空山点)-Ⅳ 487.7 m (寺屋敷点)

-辛皮駅-福知山-京都

担当者 山下周道 (611 - 1509)

備 考 地形図 大江山

【第1910回例会】★★

北信濃の山

飯綱山と高妻山

日 時 10月22日 (木) ~25日 (日)

集 合 京都駅烏丸口改札前 PM9:00

コース 京都-長野-飯綱高原登山口…南登
山道…飯綱山…中社…戸隠高原(泊)
…戸隠キャンプ場…五地藏岳…高妻
山…往路下山-北陸線まわり-京都

担当者 三橋 勉 (内656)

備 考 秋の山をのんびりと信濃の山へでか
けませんか! 22日夜行で出発予定
(参加人数が少なければマイカー利
用)

【第1911回例会】★★

能 郷 白 山

日 時 10月24日 (土) ~25日 (日)

集 合 壬生交通局 PM1:30

コース 京都-京都東IC-大垣IC-登山
口(泊)

登山口…4合目…最低鞍部…能郷白
山…登山口-大垣IC-京都東IC
-壬生

担当者 竹田 勉 (内686)

備 考 テント泊

【第1912回例会】★

府市山城清掃大会

日 時 11月8日 (日)

集 合 JR山崎駅前 AM9:00

コース 宝積寺…ハイキングコース
(清掃山城 天王山)

担当者 近藤 薫 (961 - 0185)

坂井久光 (881 - 0372)

奥村弘信 (791 - 7450)

備 考 小雨決行。

主催 京岳連

主管 自然保護委員会



ウォーキング

岡田茂久

天高く馬肥ゆる秋，運動不足からくる肥満が気になるおじさんやおばさんが，フィットネスクラブへ通う時間もお金ももったいない，なにか手軽な運動でもとまず思いつくのがジョギングでもやってみようか，登山でもしょうかであるところの春に書いた。

ところが最近では，いろいろの障害がとりざたされるジョギングや登山より，安全でヘルシー感覚で楽しめるウォーキングのほうが，よりトレンドィなのだそうです。

そういえば今まで9時になるときまって，ピッタンピッタンと聞こえていた近所のおばさん達のジョギング連も，近頃はウォーキングになったようでガヤガヤペタペタと賑やかである。それにしても田中はんの奥さんも，近藤さんの若嫁さんも夏痩せもせず，年中とおして体型も変わらずお元気なことである。

本屋の店頭には，「ウォーキング，エクササイズ」「人も歩けば病気も治る」等，ウォーキングに関する本がいっぱい。拾い読みをしてみたら，ウォーキングは気持ちのやすらぎを得る最良の方法，老化防止には歩くのが一番，肩こり腰痛にさようなら歩いて痩せる有酸素運動，歩けば頭が良くなる，歩いて治す成人病等々，内容も盛り沢山でウォーキングをやれば病院も要らなくなる感じである。

沢山の山屋仲間や有名登山家もお世話になっているS病院の院長で，日本山岳会京都支部長の斎藤先生に伺がってみると，確かにそれなりの効果はあるということである。

多くのスポーツは短時間で急激な運動を行うことが多く，無酸素運動といって体の脂肪は燃焼され難く，心臓や膝に大きな負担をかけることになる。しかし，ウォーキングは体を軽く動かすことを持続する有酸素運動で，体に貯えられた脂肪を多く燃焼するので，体の中の酸素供給機能を高め，安全で体重は変わらずに脂肪だけを減らすことができる。また歩くという人間にとっての自然な状態から，普段の不自然に緊張した筋肉の状態を解きほぐし，筋肉の血流を良くして循環機能を高め，肩こりなどの原因のとなる老廃物の排出をうながす。さらには，いったん始めると考えごとをする余裕がない他のスポーツに比べ，ウォーキングには考えごとをしたり，風景を楽しむ「ゆとり」があることである。歩くというリズムカルな刺激は「F1のゆらぎ」であり，副交感神経の働きを助長しストレスを解消する効果も大いにあるという。すなわち，ウォーキングは体にも心にも大いに効用があるということである。

登山にはいろんなジャンルがある。ロッククライミング，ピークハンター，記録を作るための登山，国体登山等々。確かにこれらは若くして体力のある時だけしかできないであろう。年齢を重ねるにつれ，山の世界から離れていった山仲間もかつて多いが，登山をライフワークとするに

は、割り切って体のため心のためと、余裕のあるウォーキング的登山を続けることも一計だ。山には街にない危険性があることも忘れてはならないが、それにも増して山のウォーキングは、街のウォーキングにはない何かを、より多く得ることができることも確かである。

【第1897回例会】

奥の堂

山下周道

台風10号の直後だけに今日の山行は危ぶまれたが幸いにも列車が福知山に近づくにつれて青空も見られる様になりこれなら大丈夫だと思えた。又NHKの予報でも今日は晴天になるとのことであった。

しかし内宮駅に下車した時も又小雨が降り出しホームで少し様子を見ているとどうやらおさまり又青空も見え出したので仏性寺に向って歩きだした。

やがて左前方に目指す空山。奥の堂が見えて来たが上部はまだ雲に覆われて見せてくれない。

まもなく仏性寺に着いて登山路をさがそうと歩いていると丁度小学校の前で職員らしき人が居られたので空山についてお聞きしたところ、「空山はこの前の及谷から登るのですが、？この山は登れません道がありません」との返事しか答えてくれません。

第1894回例会の時も大江町北原の地元の人からも同じ様な答えであったのでこれはきびしい山行になると覚悟をして「行く所まで行こうと」決心をして出発した。

ところが及谷は車止めまでは良い道であったがそこから先は油断のならない道となっていた。又その地点で右の植林帯の斜面を登る事にした。

ところが20分も進むと、その植林帯も終りとなって来たので適当な処で昼食とした。

天気もすっかり良くなり、風もあって涼しい場所での食事は何よりであった。

腹ごしらえが出来ると百人力元気よく登れるはずが、いばらと熊笹の密集地帯に突入するや、たちまち体力消耗。休んでは進み、進んでは休みとにかくこの上が奥の堂だ、頑張れ、登るんだ、とそれのみを念じて進むが、なにしろ急斜面でのイバラと熊笹に足を取られ、二歩進んでは一歩下ると言った調子で中々前に進めない。

ところが伊藤さんや木原さんはどうして登っているのか、そこらに居ない。はるか上部で「オーイ」と声だけは聞こえる。早く行かねばと思ったらくんどもは蜂の巣までつかんでしまい全く飛んだお招きまであって肝を潰す。

やっと奥の堂頂上に立つ事が出来たが三角点が見付からない、無理もない一面熊笹に覆われている、すると伊藤さんが「あった」の声に集り心からの万才三唱と健斗を祝い合った。

頂上からの展望も北方180度が見晴され今までの苦勞も吹飛んで登れた喜びを身体一パイに受けた。

計画では空山を登ることになるが時間的にも無理と判断下山は北側の斜面を急降下、又もや熊笹の中へと突入約3時間30分で大江山山の家近くに出られた。

コース

大江山内宮駅 9:25 - 仏性寺 10:45 - 及谷 10:52 - 昼食 11:35 - 頂上 13:00 - 大江山山ノ家 17:15 - 内宮駅 18:20

参加者

伊藤 潤治 木原 滋 山下 周道

【第1898例会】(その1)

越 後 駒 ケ 岳

田 村 正 弘

山歩きは大好き！

なのに クソッ！ 山登りなんか大嫌いだ。

20時に九条車庫を出発～朝2時半頃枝折峠登山口の駐車場にテントを設営していつも通りの前夜祭となる。

当初は、八海山～中ノ岳～駒ヶ岳縦走コースを予定していたのだが、地元にお問い合わせるとあまりの悪路と水の補給に問題があるとのことで断念してこの駒ヶ岳往復コースをとることにした。

22日。朝6時に起床して朝食後身支度を整えて7時に出発。今日は往復コースなので何も急ぐ事はないのだが、寝不足と二日酔い……その上に3箇月振りの登山という重圧が体にぶっしりとのしかかり体力が急激に減退して行く！

～何せ片道9kmの道程なのだ。道行山までは快調に登れたが、そこからはトップ引きを降ろされ牛歩になる。登山口から小倉山までは2時間以上経ったのに、下りも多く300m程しか高度が稼げない。小倉山を出るとやっと長いアプローチが終わり少し下るが本格的な登りになり左手に雪渓が見えてくる……降りて行って雪の上に座り込みたい心境だ。スタートしてからずっといい天気だったのに、駒ノ小屋の手前でガスに包まれ小屋では小雨になり山頂が見えない。この小屋の裏を少し降りた所に唯一の水場があり、水を補給してあと15分程頑張る。頂上(△2002.7m)でのビールやラーメンがうまかったこと！

結局は5時間のコースタイムを、長い休憩を含めても4時間で登ってしまった。しかし、復路は小倉山までは良かったのだがそこからがいけない。往路では感じなかったのだが地図上では4回しか起伏がないのに、登山口まで下りの筈が23回もの登りがあって、やっと下り切ったと思ったらまた100m以上登り返す。実のところ僕はこれが大嫌いでもうウンザリしてしまった。

結局は下りに3時間半を要して、往路と余り変わらない時間を費やしてしまったのだ。我々の他に家族連れに小さな子供達もいたが果たして明るいうちに枝折峠まで戻って来られるのだろうか？

下山後はまず風呂！駒ノ湯へまっしぐら……ザブンと入ったら「何じゃ！これは？冷たい！！」……実は冷泉だったのだ。上がり湯が温かかったのでホッとす。明日の山登りは「守門岳」と決定したので途中で食糧等の補給をして、一路守門岳登山口へ向かい駐車場でテントを張る。僕の他は懲りずにまた明日も山登りすると言っているが……僕はパス！冷たい谷川に足をつけ一日爽やかなおいしい空気とビールで天使？の休日をとることにする。

(その2)

守門岳と地藏岳

大槻雅弘

天使の休日をとるといふ、山歩きが好きで山登りが大嫌いな1人を残し、我々は守門岳を目指した。日本二百名山に数えられているだけあって、麓のキャンプ場の施設は整っているし、登山道も多くの人が歩かれているせいか結構広い道である。保久礼小屋をスタート地点にまず大岳へ登ることにした。

ブナの原生林が山道を覆い冷風を呼んでくれる。キビタキ小屋まで一登りした後、水場でノドを潤す。何とも言えぬおいしい水だ。しばらく進むと子供達の賑やかな声が聞こえ、もう今朝から登って下りて来たと言う。元気なものだ。どうも守門岳ではなく、大岳までらしい。我々は、ゆったりしたピッチで△1432.4m大岳に着く。ここには巢守神社なる大きな石碑があり、守門大明神が祀られており、ローソクの溶けた大きな塊が岩にこびりついていたのが印象的であった。

大岳から青雲岳へは、大きく一度下がってから登る。遠くから見るコースには昨日のように又、登り下りが多いのかと思ったが、案外一呼吸で通過することが出来た。もう新潟県のは秋の気配である。青雲岳の頂は、高山植物の盛りも過ぎて、多分美しかったであろうニッコウキスゲの花もしぼんでいた。

思ったより時間がかかった頂上は、遮るものはなく展望はよいが暑い日射の中であった。仲間が一人遅れた。貴重品を持った彼の到着は待ちどおしく、三角点行事がお預けとなった。全員揃っての万歳はいいものだが、山登りの嫌いな一人を置いてきたのが少々心残りであった。佐渡ヶ島が見えるという頂上は、食事中にガスに包まれ残念ながら見えなかった。

下りは1,000mの高度差で、昨日の疲れもあって少々時間がかかり約束の場所「二口の猿倉橋」へは1時間半も遅れた。

早速次の目的地、赤城山1等三角点地藏岳を目指して車を移動させた。赤城山有料道路から大沼を抜け小沼の駐車場でテントを張った。

あくる日、青空の下、電波塔の建つ三角点へ。20分で一等の標石タッチ。坂井先輩の選んだ一等三角点百名山だけはある。360°本当に展望のいい山だ。男体山、燧ヶ岳、至仏山、武尊山、谷川岳、苗場山……山名を挙げればキリがない。一時間程ゆっくりと展望を楽しみ山頂を後に

した。

帰路は、いつも通る地藏峠のルートをとって、途中、川原湯温泉の露天風呂につかり、地藏峠で昼食を摂って帰落した。三日間の短い越後の山旅であったが、楽しい想いを残し僕の夏休みは終わった。

参加者 大槻雅弘、吉田 武、三橋 勉、岡本義弘、田村正弘

コースタイム

8月21日（金） 京都東 I C 20：35～小出 I C 2：05～枝折峠 2：30（仮眠）

22日（土） 枝折峠 7：05…明神峠三等三角点 7：30…道行山 8：14～25…小倉山
9：00～10…百草の池 10：00…山頂小屋 10：50～11：00…越後駒が岳一等
三角点 11：10～12：05（昼食）…山頂小屋 12：15～30…百草の池 13：05…
道行山 14：20～30…枝折峠 3：35～守門岳登山口キャンプ場 18：50（テ
ント泊）

23日（日） キャンプ場 7：05…林道終点 7：20…小屋 7：25～キビタキ 8：00～10…
大岳 9：35～10：00…分岐 10：30～38…守門岳二等三角点 11：08～12：05
（昼食）…分岐 12：30…滝見台 13：10…水場 14：05…車止 14：30～赤城山
駐車場 18：30

24日（月） 車止 7：00…赤城山一等三角点 7：20～8：05…車止 8：15～沼田～中乃
条～丸子～和田峠～岡谷 I C 16：00～京都東 I C 19：30

【個人山行】

北海道の山旅

坂井久光

6 / 30 兼ての約束で京都山の会の幹部リーダー山崎大造氏と久馬、下村さん等の4人でフェリーで出発。7 / 2 小樽上陸。山崎さん操縦のパジェロは快適に走り 6.30 に日高町振内に到着したが、早朝で店が開かれてなく、振内営林署を訪れ、振内山岳会長元起さん宅を尋ね、糠平山 1,350 m 一等△の登路・林道を聞いたり林班図を頂いた。附近のスーパーでパン等を買って朝食として出発。

8.50 メウシュナイ川の糠平橋の手前の林道を走り終点で駐車。点の記の登路を探すが10年前の刈込は藪となり痕跡もない。仕方なく谷筋の踏跡を辿ると反対の西側に刈込が続き枝谷の急斜を登った。尾根筋に道跡は続きなんとか登れそうだと藪道を辿った。葡松の生えた稜線から道跡も消え悪戦苦闘が続き三つ程こぶを流れる汗をもともせず勇気を振り起してやっと山頂に着いた。時 14.37 約 5 時間のアルバイト。標高 1,350 m の一等△を囲んで感激の万才三唱。

やっと念願の日高の難峰を攻略した。

快晴で展望絶佳。幌尻岳や日高の山々が一望出来た。時間が遅いので山崎さんの決断で谷筋を下降することにした。葡松の林を下ると千島笹と樺木・イタドリ・フキ等の藪を漕いで次第に水量の増す谷川を高巻を繰返し下り、約2時間半で車へ。その夜は民宿千也（家）で一泊。風呂で汗を流してやっと人心地がした。

7 / 3 7.50出発。11.20～13.00 駐車場チェーンあり。それから取水場迄長い林道歩き、ここから額平川の遡行となり始め2K位は右岸沿いの山道で後は右岸左岸と渡渉の連続約18回で夕刻雨の中を幌尻山荘に着く。ストーブを炊いて濡れた着物を吊下げて干し、遅い夕食を作って食べシュラフにもぐった。7 / 4 雨はやんだが、ガスで曇天だ。4.15 出発。命の泉で一服5.37～45, 7.45 幌尻岳2等△2,052 mに登頂。感激の握手万才三唱。

ガスで展望なし、途中雪渓のトラバースや白根葵の紫花が美しく、婦人方は喜んでた。

下山は戸蔭別岳経由10.00分岐10.23山荘着12.15～37取入口14.13～23。15.15～21ゲート。その晩は二風谷の平取温泉に汗を流し、焼肉料理を喰べて一泊。7 / 5 早朝出発。平取町から富川町を経て門別町から海岸道路を走り原賀・静内町からペラリ山に登りに行ったが登路が藪でウドやタラノメをとって土産として三石町を通り快適に走り浦河町白泉から左折国道236号線を走り上杵臼でメナシユンベツ川林道に入り楽古山荘に行き一泊。7 / 6 ダニの多い楽古岳を汗を流して登頂。東の広尾側から3年前に山形氏と登ったが、西からは初めてであり、良い道だった。途中白山千鳥の麗花が咲いていた。亦エゾフウロや塩ガマ等が咲いていた。

天候は快晴で日高の山々が一望出来た。

ゆっくり休んで往路下山。林道終点13.00～14.00 15.10アポイ岳麓の農業担手センターに着き一泊。

7 / 7 高山植物の多いアポイ岳へ再登。今回は天気が良くアポイアツマ菊始め、アポイタチツボスミレ、マンテマ、ミセバヤ等が白山チドリや白根葵と共に咲いていた。山頂より少し奥へ行くと楽古岳始め既登のカムエク・ペテガリ・メムロ・帯広岳等が見えた。林道や山麓では白いノリウツギ（ザビタ）の花が多く各地で見られた。

往路下山して冬島海岸で昼食後昆布や蟹取に興じた。石を起すと小蟹が飛出すのを捕へて網へ。沢山とって唐揚にして喰べたりした。

14.25 出発海岸沿に走り苦小牧から高速に入り札幌16.40着で3人と別れ、地下鉄で札幌駅に行き夕食後バスで旭川に行き一泊。

7 / 8 今日には8時に旭川のインターで山形歳之氏と待合せる約束なので時間に遅れないようにバスの一番で旭町に行きタクシーに乗換えてインターへ、山形氏は先に来て待っていた。

久瀧の挨拶もそこそこ大略を話し上川へ車を走らせた。最初武利岳を目指したが、彼は未だ安足山851mが未だなので、この山を案内した。愛山溪への道路から当馬鐘乳洞への車道に入り、林道との分岐の鎖場で駐車。

昨年5月の残雪期に登った記憶を辿るも、余りの景色の変化に只驚くばかり。緑一色の林道を歩き山頂への林道分岐を探すも草刈の人に聞くも知らないし、彼は地図を見て遠のくと云うが見憶の標識が見当らず逆戻りして山頂へ向う谷沿いの林道を辿ることにした。

草が茂り蔭が生茂っている処もあったが、奥へと続いておりどんどんつめると以前私が登った林道との合流点に達した。谷川を挟んで両岸に林道が尾根筋沿いに上っていたのだ。

そこから笹に覆われた廃道化した林道を進んで山頂へ。山頂三角点附近は小広く標石に測量柱が立っていた。四面は林で夏草が繁って道以外は丁度歩けそうにない藪だった。

二人で万才三唱。第一回は時間はかかったが新ルートを発見して先づは成功。往路下山して14.57～15.15 駐車場。車で層雲峡・石北峠を越え、和原から国道39号の丸瀬布町への車道を走り峠を越えて武利川沿いに下ると武利岳の標柱があり、左折して下の川林道に入り910mの駐車場へ17.47 着夕食後一泊。

7 / 9 7.00 出発。天候は曇だったが、5合目8.30、7合目1K 9.08～15、10.00～10 武利岳1,876m 1△、展望ガスですくなく近く武華山や周辺の山が見えた。11.41～485合目、7合目位から岩稜で葡松が出てくる。12.51～13.27 駐車場、14.23～15.00 雨の為丸節布温泉に入り汗を流す。いこいの森キャンプ場で1泊。7 / 10 6.20 出発。瀬戸瀬山へ51点沢から登頂を試みたが記憶が薄れ、ガスではっきりせず引返す。瀬戸瀬温泉経由、セトセ林道の終点へ行き雨中を藪道を登って遠軽営林署小屋経由瀬戸瀬山へ2年ぶり登頂900m 1△山頂平坦で三角点は笹や蔭の藪の中で櫓の廃材の傍にあり再発見出来た。14.25～30山頂。16.23～40 林道終点。

17.10 瀬戸瀬温泉に入り汗を流し、駐車場で一泊。7 / 11 8.07 出発。9.50～10.00 遠軽町・生田原町・留辺蕊町を経て、東相内から富里キャンプ場を通り、仁項山登山口へ。9.50～10.00 林道が鎖で閉鎖の為、林道を登って山頂829m 1△へ、11.12～30 ガスで展望悪し。二度目。

12.13～13.33 登山口キャンプ場、キャンプ場へ電話を借りに行き、「S 23年頃、上京区紫竹桃ノ本町16の川端良三氏が此の附近一帯を単身開拓し北見町の本屋にその功績が出版されており、歌碑も近くに立っている。」とのこと。14.00～35 北見町の店で登山靴と靴下を買い、カツコム山391m 1△へ。反射板あり、林道終点15.53 山頂1△ 16.00～10. 駐車場16.30～35 若松キャンプ場17.26 (泊) 7 / 12 6.55 出発。8.20～43 林道の峠 15 / 16 林班 9.33～45 枇杷牛山1△958m、天候晴なれど周囲林の為展望なし、12.44～13.55 ポンオロナイ川 ほうれい橋。

鎖があり、長い林道歩きの末尾呂山605m 1△第二電々訓子府ステーションが建っていた。林中の為、展望無し。16.48～17.08 ほうれい橋、17.40 チシケップ湖キャンプ場で1泊。7 / 13 6.50 出発。本別町火葬場で駐車。8.20～40。林道から稜線へ藪漕ぎして登路に出て、公園化した山頂陸別山392m 1△へ。林間で展望なし。陸別町の寺横から登路があるようだが地図には記載なし。8.10～15。駐車場8.28～40、次いで愛冠で国道から林道に入り、峠附近で駐車9.50～51、カムロイキ山371m 1△へ。天測点や櫓も立ち周囲は林で天候は曇だった。10.30～40。

駐車場11.03～20。足寄太から芽登經由西喜登中で芽登温泉の分岐を通り、舗装通路を走り6K程先で右の林道に入り、チセンベツ沢川林道へ谷沿いに走り喜登中で芽登温泉の分岐を通り、舗装通路を走り6K程先で右の林道に入り、チセンベツ沢川林道へ谷沿いに走り喜登中山1△へ向ったが林道分岐が多く、地図上の登路が判らず、ブル道を登って探したが藪で引返し、15.00～16.05 芽登温泉17.00 着、露天風呂あり、入浴後駐車場で1泊。7 / 14 8.15 出発。営林署(西喜登中)へ行き詳しく聞いて出発。駐車9.46～10.05。曇天なれどブル道を辿って山頂の平坦な

1等△ 1,312 mへ。二人で万才三唱。草原に標石発見。周囲が林で観測方角に切開あり。11.11～35。駐車場 12.08～24。西喜登中の糠平営林署分所に 13.01～36 所長に礼を述べ出発。芽登で左折して上士幌町へ。途中の北門で左折して居辺山^{オリベヤマ} 428 m 1 △へ。途中日測の職員の車と出合い道を聞いて櫓の立つ山頂へ。15.10～17。林で展望悪し、北に無線塔あった。足寄町へ 16.10～30 買物をして、稲井の公民館広場で 1泊。17.00。7 / 15 5.27 出発。5.51～6.08 ウコタヌプリ林道終点。6.53～7.00 ブル道終点。7.45～50 反射板の建つ鞍部。8.05～27 ウコタヌプリ 745 m 1 △二人で万才三唱。櫓が立ち展望良好も曇の為すくなかった。9.24～30 ブル道 9.57～10.33 林道終点。12.10～13.10 悪路の道々を山形氏の上手な運転で峠を幾つも越え、カーブの連続の登り下りを乗切り白糠町庶路川の大滝の下流の滝の下橋に到着。ブル道を辿り、滝の上山 568 m 1 △へ 14.30～50 登頂。櫓が立ち展望良好、附近の山の伐採が進み、ブル道が走っているのが見えた。駐車場 15.42～16.05。往路二股へ戻り、舗装の国道を快適に走り本別町へ行き買物をして、郊外の静内キャンプ場へ。17.36。

横の山溪閣温泉に行き入浴。汚れ物を洗濯機でして干して 1泊。7 / 16 久しぶりの好天で、濡物の乾燥に時間をかけ、10.35 出発。林道で駐車 11.16～20。幌内山 280 m 1 △～11.50～12.00。櫓が立っていた。

笹の藪道でダニ多数附着。駐車場 12.23～58。それから山形氏が近くの二等三角点と間違えた売買台 133 m 1 △へ池田町經由帯広市から中札内への国道を走り、15.35～43 櫓の立つ目的地へ。麦畑を通過して到着。又 200 m 程先にある 2 等△へも行って彼の話聞いた。17.17 音更オツルシキャンプ場へ。十勝川温泉の近くの道から林道を走って到着 1泊。谷間の静かな処だが私達丈で管理人も不在であった。7 / 17 6.05 出発。池田町から南へ十弗から左折して林道の峠から左折して、7.10 駐車。櫓の立つ小野田山 226 m 1 △へ。周辺は林で林道から新しい切開を登った。7.15～22

是等の情報は地理院長より各測量会社の宿泊所の電話や所在を知ったからである。駐車場 7.26～34。次いで十弗から国道を南下、浦幌町經由、上別町への舗道を北上、常室の奥山牧場から右折して林道の奥で駐車、新しい切開（標識あり）を登って 8.46～57 登頂。常室山 1 △ 255 m 展望良好。小野田山が見えた。駐車場 9.06～16。浦幌宮林署で霧裏山^{ムリサン}の林道の鍵を借りて出発。9.52～10.06。山頂ウエザー観測塔へ 11.07～10 到着。すぐ近くの山頂の櫓へ。11.15～24 到着。613 m 1 △は展望よく、山又山の北にウエタキヌプリや滝の上山等が望見し快哉した。11.27～32 ウエザー塔。12.32～13.18 浦幌町営林署へ行き礼をして附近の食堂で昼食をとり、釧路への国道を走り音別町で左折北上し橋を渡り、池の畔を通り、八州社員の車と会い登路を聞いて尺別台 235 m へ。音別町へ戻り海岸のパジクルキャンプ場（未完成、便所丈完成）で一泊。7 / 18 6.17 出発。東へ向い白糠町で左折し北上御札部の専光寺橋で右折してオサツペ川^{オサツペ}林道をつめ 6.38～48。曇天だったが、登路探して櫓の立つ庶路山 1 △ 309 m へ 7.52～8.00 登頂。駐車場 8.34～57。白糠町を経て国道を西へ音別町・浦幌町を通過して豊頃町の橋で十勝川を渡り駒島から当縁山 330 m を目指したが雨と道路工事の為引返し忠類村を経て大樹町を抜けて南の石坂の東部の藻岩山 135 m 1 △を雨衣を着て牧場主の案内で登路を聞いて登頂。13.30～40 櫓が立っ

ていた。下山後大樹山麓の林道分岐で駐車。15.00～25。今春私の登ったコースを雨中藪を漕いで登ったが、山頂近くで熊の寝た跡や糞塊を見付け吃驚。今春も足跡らしいものがあったし、三年前も熊が出た記事が新聞にのっていた。登ると櫓が立ち、反対側から切開があった。538 m 1 △ 16.05～10。下山は切開を下ると間もなく林道に出て、長い林道歩きの末駐車場の分岐へ16.45～55。以後札内川上流の瓢箪滝の札内キャンプ場に行き一泊。7 / 19今日も雨で8.11 出発。中札内村の友人紅露と会いに行き9.00～40カムエリ岳の情報や3年前の思出、今回の経過等話し会って別れ、当縁山へ南の明和から向った。11.08前日の道路工事現場に駐車して登山開始。測量会社で入手した林道は鎖がかかって駄目だった。雨中と高さが違はぬピークが多いので迷った末。漸く櫓の立つ山頂335 mに着く。枝林道のすぐ横で65 / 41林班界の分岐の先100 mの地点である。12.43 駐車場に戻り、駒島に下り、北へ一路幕別町へ。そこで左折して帯広經由更に北上して士幌町から左折して然別湖に向い西に走って分岐で右折、途中然別湖の道別れて、菅野温泉の鹿の湯キャンプ場へ。1昨秋田中三郎さんと来た思出の出場だ。久しぶりの露天風呂で汗や垢を落とし、やっと人心地となる。洗濯物を干し寝たが、霧雨で元のモクアミ。7 / 20 9.00 出発。鹿追町営牧場で登路を聞き、牧場内の林道へ進んで駐車。登路を探すも跡はなく、落葉松林の切開を利用して尾根に出るも笹が茂り古い道跡を頼りに進み、北電反射板の立つ沙間樹庵^{サマキマン}570 m 1 △～11.16～35登頂、久しぶりの晴天で展望よく周辺の山々が一望出来た。往路下山して車で新得から狩勝峠を越え落合に下りトマムを通過して占冠を経て日高町富岡の沙流川キャンプ場で一泊。7 / 21ストマムのホロカトマム川林道をつめて吐満射岳を目指したが登路が見出せず撤退。

日高町から振内を経て穂別町キャンプ場で一泊。7 / 22朝から雨で紅葉山經由追分町の安平山166 mを登り午後は厚真町の石油沢の幌内宇隆線林道をつめ、^{ウバツシ}嫉失山252 mを登ったが道が悪く大変だった。その晩は平取町二風谷の平取温泉で一泊。久しぶりの温泉で汗や垢を流してさっぱりしたが、洗濯物は干かず。7 / 23今日も雨で仕方なく低地の一等△に登りに、穂別町－紅葉山－追分町と走り千歳市の自衛隊を訪れ、演習場内にある漁村70mの登頂許可を願い、案内して頂きジープで山頂へ。ついで午後は南の植苗19mへ。此所は丹治仁三郎氏の裏山で案内を乞うて山の神と櫓の立つ山頂へ庭を通して達した。その夜は又穂別町キャンプ場へ戻って一泊した。

7 / 24久しぶり今日は快晴。5.50 佐主岳目指して出発。荒れた林道を谷沿いに走り点の記と違って谷筋でなく南尾根に沿った林道から今年的一次基準測量の登路が開かれているとのことで、山頂近く迄車を進め6.37～42 幾つかのブル道の分岐を調べて登路（赤布あり）を見付け、切開を登って山頂へ。619 mの山頂は櫓が立ち、展望もよく、豊進橋のキャンプ場が見えた。7.15～30°。

駐車場7.58～8.04。キャンプ場に戻り8.27～35。それから穂別町から振内へ行き、橋を渡った所から仁世宇林道を20 K程進み丹のある分岐から左折して、林道分岐の広場へ10.02～15。前月調査の時、判らなかつた登路のブル道（赤布あり）を見付け、その先から切開（荒く滑り易い）をつめてハツタオマナイ岳（1,021 m）へ登頂。山頂は山広く笹も低く白樺が疎らに快晴で展望絶佳、遠く大雪、日高の諸峰も展望出来た。感激の握手、暑くて汗がひどい。マダも多くついて、シャツをぬぎダニを払い休憩。11.23～13.00、駐車場へ14.00～45 シャツを代へ、

汗を拭い溪流で洗顔して心地ついた。

二風谷の平取温泉へ行き 15.44～16.30, 入浴して新冠の判官館キャンプ場へ行き一泊。

7 / 25 6.00 出発。6.30～33 奥山牧場で道を尋ね、登山口 6.36～43。賀張山 1 △ 487m へ熊が出たと測量社員の言葉通り道に糞があった。登頂 7.37～50, 櫓が立ち展望は周辺が林であった。下に牧場が見えた。牧場 8.28～45。次いで東静内から西川を経てペラリ山へ再度向ったが様子が変わり、登路を間違い、時間をつぶし雨となり浦幌 240m 1 △ へ向って峠から林道に入り探したが三角点が見付らず三石温泉 18.00 入浴して車で 1 泊。7 / 26 天気悪く, 4.45 出発。小樽 7.40～10.00 を走りフェリーで帰京。7 / 27 16.00 舞鶴。

木曾三岳、^{ナギソ}南木曾岳の山旅

服 部 正 義

8 / 31 AM12:10 家族が寝静まる中, 自宅を出発する。

名神, 中央ロード中津川 I C で R19, R 256 で妻籠を通り南木曾岳登山口看板の所を左折, 額平川をキャンプ場終点までさか登って行く。

^{ナギソ}南木曾岳 (1,677 m) 二等三角点 (晴)

キャンプ場終点に避難小屋, P, WC があり, ここから先は林道にゲートがある為にここが登山口。

登山準備を終え AM 6:50 分 出発。散策歩道を少し歩くと林道に出て 5 分位いで左側の沢に掛っている橋を渡り右手に砂防ダムを見て 5 分位登って行くと, 登山道, 下山道に別れている分岐点に着く。

両方の登山道も登山者がすれ違いの時, 大変危いので一方通行にしているなあと直感, その通りきり立つ尾根を直登の連続, クサリ場があり少しスリルを味わう。

摩利支天分岐まで来ると大展望。南アルプス, 中央アルプス, 北アルプス, 奥三界岳, 恵那山等の山々を見せて頂き一人満足感に浸る。

本峰は分岐点から一旦下り笹の中を登ると御岳大明神の石碑が立つ南木曾岳の最高点に着く。AM 8 時 3 分着。

展望台からは, 木曾三岳の御岳, 駒ヶ岳が特によく拝められ, 小生も合掌, 記念写真をとり三角点探しが休息, 下山道を少し歩くと, 二等三角点あり, 写真に収め 8 時 15 分下山, 駐車場登山口に 9 時 15 分に戻る。

次の山, 安平路山に向う為, R 256 に出て昼食を食堂で済ませ太平宿から東沢林道で摺古木山登山口まで車で乗入れする。

^{アンペイジ}安平路山 (2,363 m)

前回、摺古木山（2,169 m）一等三角点百名山の登山時は飯田市水道局の取水所から約3 km地点で土砂崩れの為、車をUターンさせてここから林道終点登山口まで歩いて摺古木山に1年前に登山する。

今回、長野県の友人に情報を得て林道終点まで乗入れして、太平宿から終点まで車のメーターで計ると約12km、早々登山準備済ませAM11:40分出発。知っている登山道を飛ばして摺古木山山頂に12時38分着、一等三角点、御料局の三角点に触れて、塩、お茶を補給して、御料局三角点横を下って行く。

12時45分出発。安平路山に行く程、笹が多くなり、小生の肩位いの笹が一面、所ろ所にある赤いテープ、布切れをたよりに歩くが、足元には倒木が隠れていて、何十回と倒れながら又立ち上がり歩く連続、天候も良く、笹で風通しが悪い、往路下山時の事を考え、倒木手前は笹を結んでは、進んで行くと白ピソ山で笹の中、テープ、布切れを見落し無い様に下って行くと樹林の間から見えた、見えた安平路山が！

コルには赤い屋根の立派な避難小屋が見える。3時55分に着く、15人位いは収容できる立派な小屋、室内も清れいで小屋で5分一服。

目標の山が見えているだけに又ファイトが沸いて、背に太陽を受け33分で登高する。山頂はプレートが一本だけ立って笹、樹林に囲まれたピクで記念写真をとり一人でビールで乾杯。なまぬるいビールだが最高の味。唯一人出合わなかった安平路山をあとにして往路摺古木山に戻り50分で摺古木山登山道に帰り無事午後6時10分摺古木山休憩舎に戻りビールを飲みながら夕食を作り、今夜は涼しいこの小屋で一泊、明日は南駒ヶ岳移動の為、早い時間に身体を休める。

南駒ヶ岳（2,841 m）三等三角点（快晴）

9月1日AM5:10分 2台の自動車音で眼が覚め、外を見るとワゴン車と普通車10名のパーティ、CL、SLの合図でてきぱきと登山準備進めCLらしい人が小生に話しかけてこられたが、当方は昨日、安平路山に登ってきたという、このパーティも安平路山を日帰登山とのこと、どうもお疲れさん。

当方も朝食を済ませ、林道下って太平宿、R256、R19に出て大桑村に入って伊奈川大橋を渡ってすぐ右折、関西電力伊奈川発電所横を通過して伊奈川をさか登ってアスファルト道が切れ、第二発電所附近にゲートがあり終点。

ゲート横から橋を渡ると林道が丁字路で左側がケサ沢で南駒6.5 km右側福栃山模巻から越百山、南駒ヶ岳5.2 kmの看板があり、今回はケサ沢から南駒ヶ岳に登り空木岳（2,864）を見せてもらう計画で林道分岐点AM7:40分出発、炎天の中PM12:10分岩の山頂、小さい祠が奉るピクに着く。途中ピク（P.2,411 m）の確認を見落して、引返し三等三角点を確認後、ピクに着く。

快晴、大展望、周囲の山々を見て酔いしれていると30分位い時間がすぎるのは早い、記念写真をとり12時45分次の山越百山に足を向ける。

越百山（2,613 m）三等三角点

花崗石の南駒ヶ岳から越百山まで所々スリルを味いながら後を振りかえると屋根から半分は花崗石で片方は緑に二分され、越百山まで次ぐ従走路。一人気ままに南アルプスを見ながら歩いてピクを登って行くと三等三角点の越百山頂上に14時12分着く。

展望は申し分なく、南越百山から高低になり、きのうルートファイディングした安平路山、摺古木山を確認したり、記念写真等で15分位休憩し越百小屋から福栃模巻の急登の下り坂を御岳見ながら駐車場へ無事16時9分に到着。

みやげは元気な顔と自然の水をポリタンクに詰めて木曾路から無事帰京する。

例会報告

例会 No.	目的地	月 日	天候	担当者	参加者	記 事
1897	丹波の山 奥の堂	8月9日		山下 周道	伊藤潤治 木原 滋	(別稿詳報)
1898	変更 越後駒ヶ岳 守門岳 地藏岳	8月21日 ～24日		大槻雅弘	吉田、三橋 岡本、田村	(別稿詳報)
1899	変更 六甲地獄谷	9月6日		鷲見敏一	鷲見未、 清水、井戸 他2名	奥の深谷へのR 367が不通と なり変更。 久振りに地獄谷 に入ったが荒れ ていた。 風吹山-東お多 福山-荒地山- 高座滝へおりた。

部員動静

目的地	月 日	天候	参加者	記 事
北海道の山旅	6月30日～ 7月27日		坂井久光	(別稿詳報)
風越山	7月4日 ～5日		伊藤潤治 他2名	<p>昨秋例会の折、直前に体調をくずし不参。岡田部長の名報告文で、一層くやしがっていたが、去る7月4日、7時出発、飯田市押洞の登山口11時着丸山享保会理事長、伊藤利治氏から「風越山イラストマップ」「権現山白山社由緒書」「美しき町 飯田」を頂き、ご親切に送られて、あとは季節はちがっても岡田部長の名紀行どおり(違ったのは6時間を要したこと)の名山で、めでたく念願がかな</p>

目 的 地	月 日	天 候	参 加 者	記 事
				<p>った。</p> <p>また小川の湯で汗を流し、勧められて矢筈公園キャンプ場に赴き、天幕を張って祝盃をあげた。</p> <p>翌5日は中津川に戻り、ニツ森山と笠置山（付知）を登るつもりが、雨と道路事情に阻まれて、からくも岩山Ⅲ 932mとニツ森山Ⅱ 1,223m（日本山嶽志、美濃国恵那、加茂ノ二郡ニ跨ル、恵那郡福岡村大字高山ヨリ二里ニシテ其山頂ニ達ス）の登頂に終わった。静寂境にあるローソク温泉をたずね、すっかり着替へ17時頃帰路につく。</p>
明神ヶ岳△524 と 中畑山△535	8月2日	晴	大槻雅弘 三橋 勉	<p>夏の暑い一日。やはり家にじっとして居れないと、法費2.5万円の府県境の山、明神ヶ岳へ京都側から登って来た。シリーズ例会では大阪側から登られたので、亀岡南つじヶ丘団地から登った。続いて少し大阪寄りの三角点で大原野外畑町の南に位置する中畑山を登った。大阪府下500m以上の山で49山中40番目の高度の山である。点名中畑であるが、頂上に中畑山と大きく書いてあった。</p>
火打山と 雨 飾 山	8月8日 ～10日	晴 雨 曇り	大槻雅弘 F1	<p>厚生会登山も仕事で参加出来ず、どうしても信州の山に登りたく、掛足で台風の合間をぬって登ってきた。昨年に井戸さんが、そして8月号で竹井さんが、いとも簡単に登られたのでそれなら私もと。笹ヶ峠から火打山往復と小谷温泉で1日休養してあくる日は単独で雨飾山を往復3時間で登り念願の山が2山手中に入りました。</p>
大文字山	8月16日		三橋、他	<p>明るいあいだから山科側から登って送り火を山の上から見た。人が多く火床までは行けなかったが、鳥居・妙法・左大文字・船形が見えた。</p>
鈴鹿 竜ヶ岳 2等△1,100m	8月23日		坂井、坂田	<p>ケガしたニホンカモシカの子供を助けようと近づいたが逃られた。1mまで近づいたのは初めてだった。サンヤリ958mを目指したが雨のため竜ヶ岳へ。</p>

目 的 地	月 日	天候	参 加 者	記 事
赤谷山 2等 1,216 m	8月26日		坂井久光	二等三角点。青春18キップで出掛けた。 氷ノ山の近くの山。姫路―戸倉―枝尾根―△―往復、一次基準点発見。
冠着山 3等△	8月30日		坂井久光 他1名	標高 1,252 m。(姥捨山)。 聖高原から草湯温泉へ。
リトル比良	8月30日		津田、奥村 宮川、今井 他4名	快調なペースに故障者が出たが、大事に至らず、無事終了した。
木曾三岳、 南木曾岳	8月31日 ～9月1日		服部正義	(別稿詳報)
高社山 2等 1,352 m 本白根 2等 2,165 m 白根火山 2,138 m Ca	8月31日 9月1日		坂井久光	夜、間瀬(長野電鉄)からピストン。 湯田中で2泊して、駒草の大群落を見て本白根へ、又、白根火山も登ってきた。
戸谷(点名)	9月6日		大槻、 他1名	午前中、仕事があり、午後から登れるような所をと思っていたら、手近に一山あった。金毘羅山手前、静原の部落外れから谷をつめ△525.2 mへ。頂上には「検山」と書いてあった。下りは南へ尾根径を採って薬王坂に出た。スタートから車止まで3時間の行動であった。
小谷城址	9月6日		津田、奥村 今井、 他3名	自動車で上の方まで登れる。同行者から軟弱と言われながらも登った。
高丸山 2等 536 m	9月6日		坂井久光	姫神線三田月駅より鎌谷経由。
大蔵山 2等 520 m	9月9日		坂井久光	播磨新宮駅より余野保経由。新池、大成池を通り、茂った露岩の山頂・山陽自然歩道を歩く。

雑 報

▲▲▲

9月の集会

9月8日(火) 場所 厚生会館4F大教室
出席者(本局)岡田、大槻、鷺見敏、三橋、和田、方山、井上
(OB)山下、坂井、伊藤、津田 (高速)大倉 以上12名
内容 例会報告ほか

▲▲▲

他山岳会の会報(受贈分)

8月号 比良山岳
9月号 山友、青嶺、木雞、京都山岳、近畿山行、北山、一等三角点、趣味の登山

▲▲▲

平成4年度秋期府民登山大会

室内講習会 10月17日(土) 18:00~20:00
会場 京都府中小企業会館
演題 動物と自然保護について
講師 岩田山自然遊園地 園長 浅葉信夫氏

登山大会 10月25日(日) AM7:30
集合 叡山電鉄出町駅改札前 京都バス貸切
コース 貴船山・二ノ瀬ユリ

▲▲▲

部費受領

平成4年度 山岳部費は全員受領致しました。



THE LOG CABIN CO.
 H.HASEGAWA'S SHOP FOR ALPINISTS
KYOTO JAPAN

登山道具店 ログケビン
 ☎604 京都市中京区御幸町通娯楽師下ル
 FAX:(075)221-8069 電(075)221-7569
 営業時間:午後3時~8時 お問い合わせはなるべく郵便か
 定休日:月曜日と火曜日 FAXをお願いします。

結婚引出物・内祝・開店記念品・粗品
 仏事用お返し品・お中元・お歳暮用品

贈答品総合センター
 厚生会指定
サンコークラフト
 西島輝雄

左・川端丸太町下る下堤町88
 TEL (075)771-3442

帆布・濾布
 テント・シート
 雨合羽

木村工業有限会社

京都市中京区ミブ車庫前
 TEL 801-5331 (代)
 西大路営業所
 下京区西大路七条下ル
 TEL 321-0251

登山とアウトドア専門店
今、アウトドア派大集合!!

●登山用品はもちろん、
 注目のスポーツ
 カヌーをはじめ、
 ひと味違う充実の
 品揃えは必見のもの!!

ビッグホリイケ
 営業時間 AM10:00~PM9:00 <年中無休>
 京都市中京区御池通高倉西入(千代田生命京都御池ビル2F)
 ☎(075)222-0363

